

ブルジョアジーが尻ごみしないように……

われわれマルクス主義者はみな、ブルジョアジーの革命に賛成する態度が不徹底で、利己的で、臆病なものだということを、理論のうえから知っているし、またわが自由主義者やゼムストヴォ議員やオスヴォボジデーニエ派の実例で、毎日、毎時観察している。ブルジョアジーは、その狭い利己的な利益が満足されるやいなや、首尾一貫した民主主義から「尻ごみする」やいなや（しかも彼らはいまもうそれから尻ごみしつつある！）かならず、その大部分は反革命のがわに、専制のがわに寝がえって、革命に反対し、人民に反対するであろう。あとのこっているのは、「人民」、すなわちプロレタリアートと農民である。プロレタリアートだけが確実に最後まですすむことができる。なぜなら、プロレタリアートは、民主主義的変革よりもはるかにさきのほうへすすんでいくからである。だからこそプロレタリアートは、共和制のために最前列に立ってたたかっているのであり、ブルジョアジーが尻ごみしないように考慮をはらえという、愚劣な、プロレタリアートに値いしない助言などは、侮蔑の念をもって拒否するのである。農民のなかには、大量の半プロレタリア分子とならんで小ブルジョア分子がふくまれている。このことが農民をも動揺的にし、プロレタリアートが厳密に階級的な党に結束しなければならないようにする。しかし、農民の動揺性はブルジョアジーの動揺性とは根本的にちがっている。というのは、農民は、現在では、私的所有を無条件に擁護することよりも、むしろこの所有の主要な形態の一つである地主の土地を取りあげることに利益を感じているからである。農民は、それだからといって社会主義的になりはしないし、小ブルジョア的でなくなりはしないが、民主主義革命の完全な、きわめて急進的な味方になることができる。農民は、もし彼らを啓蒙する革命的事件の進行が、ブルジョアジーの裏切りとプロレタリアートの敗北によって、あまりにはやく中絶するようなことさえなければ、かならずそうなるであろう。農民は、以上のような条件があるなら、かならず革命と共和制の砦になるであろう。なぜなら、完全に勝利した革命だけが、土地改革の面で**すべてのもの**を農民にあたえることができるであろうし、農民がのぞんでおり、夢みているもの、また半農奴制の泥濘、畏縮、隷属のくらやみからぬけだし、商品経済の限界内でゆるされるかぎりの生活条件の改善を達するために（「社会革命派」が想像しているように資本主義を廃絶するためではなく）農民がほんとうに必要としているもののすべてを、農民にあたえることができるであろうからである。

第九巻 P92~93 「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」

1905年6~7月に執筆

ポイント

ブルジョアジーは、その狭い利己的な利益が満足されるやいなや、首尾一貫した民主主義から「尻ごみする」やいなやかならず、その大部分は反革命のがわに、専制のがわに寝がえって、革命に反対し、人民に反対する。ブルジョアジーが尻ごみしないように考慮をはらえという、愚劣な、プロレタリアートに値いしない助言などは、侮蔑の念をもって拒否しなければならない。

新しい人民の民主主義革命は、資本主義社会の限界内でゆるされるかぎりの生活条件の改善を達するためにほんとうに必要としているもののすべてをこの革命で利益を得る諸層

にあたえることができる。しかし、この革命で利益を得る諸層のなかには、大量の半プロレタリア分子とならんで小ブルジョア分子がふくまれている。小ブルジョアジーの夢みる未来とプロレタリアートの夢みる未来とは違う。このことがプロレタリアートを厳密に階級的な党に結束しなければならない理由である。